

# 幸町地区総合整備検討有識者会議 第5回会議 会議録

日時：令和6年3月27日(水) 18:00～20:40

会場：呉市役所7階 755～758 会議室

## 1 開会

### (1)事務局からの冒頭説明

#### 事務局

これより、幸町地区総合整備検討有識者会議第5回会議を開会いたします。

ご出席の委員の皆さまにつきましては、お手元の配席表でのご紹介に変えさせていただきます。本日、戸高委員におかれましては、オンラインでのご参加でございます。また、岡委員、ならびに、福永委員は、どうしても他の用務との調整がつかないとの連絡がございまして、本日は欠席でございます。

なお、岡委員、福永委員より、この度の有識者会議に当たって、ご意見をいただいておりますので、後ほど、議事の中でご紹介いたします。

ここで、事務局より連絡がございまして。

撮影はここまでとなります。

これより後の撮影はできませんので、ご理解のほど、お願いいたします。

なお、本日の傍聴に関しましては、会議全体を通して原則可能でございます。

それでは、会議を再開いたします。

本日の会議は、お配りしております次第のとおり進め、会議の終了は、20時を予定しております。

これより議事に移りますが、議事の内容につきましては会議録を作成し、後日ホームページに掲載いたします。

また、会議録には発言者名を記載いたします。ご了承いただきますようお願いいたします。また、ご発言の際は、マイクを近づけていただきますようお願いいたします。

ここからの議事進行は、田中座長をお願いいたします。

## 2 議事

### 議事説明

#### 田中座長

座長の田中です。本日もよろしくお願ひいたします。

本日の議題がいくつかありますので、少し説明をさせていただければと思います。まず次第をご覧くださいければと思います。

「2議事」の中に(1)～(7)まで議題が並んでおります。(1)から(5)につきましては報告・共有事項となっております。(6)(7)は意見交換の議題となっております。

まず議題（１）につきましては、２月６日に行われた「市議会総務委員会への報告について」事務局よりご報告をいただければと思っております。２つ目ですが、同じく２月６日に開催されました「第４回呉市立美術館あり方検討委員会について」を横山副座長よりのちほどご報告いただければと考えております。

３つ目は２月１９日に開催された「呉市入船山記念館運営審議会の開催報告」について、のちほどオンラインの戸高委員よりご報告いただければと考えております。よろしくお願ひいたします。

議題（４）と（５）につきましては幸町地区に求める機能の具体案について、（６）で議論をしていただければと思ひますが、議論にあたり参考となる情報共有をしていただくという趣旨で（４）（５）がござひます。

議題（４）は幸町地区を含めた市の中央地区において現在進められているまちづくり事業の概要について、議題（５）は前回の有識者会議でご報告しましたが、青山クラブ及び桜松館の建物調査の状況の続報としてこの２つの建物の現状について事務局よりご説明をいただくというような流れで考えております。

議題（６）は本日の会議のメインとなっております「幸町地区に求める機能の具体的な内容について」委員の皆さまより、ご意見・ご提案をいただければと考えております。

最後に議題の（７）としまして、議題（６）をベースに議員の皆様からいただいた機能の具体的な内容を踏まえつつ、幸町地区内での配置案についてご意見を頂きたいと考えております。

限られた時間の中で７つの議題ということで盛りだくさんではありますが、円滑な議事進行に努めてまいりたいと考えておりますのでご協力をお願い致します。

ここで、議題に入る前に本日の会議よりこれまでご出席いただひておりました加茂委員の後任として、櫻井委員に就任いただくこととなりましたので、ご挨拶をいただきたいと思ひます。

櫻井委員、よろしくお願ひいたします。

#### 櫻井委員

海上自衛隊呉地方総監部 管理部長の櫻井と申します。よろしくお願ひいたします。

私自身、今回４回目の広島県民になりますが呉は初めてで、昨年１２月に着任しましてまもなく４カ月になります。

呉地方総監部と呉市とは長い歴史を持った共存共栄ということでともに発展していくということで微力ではありますが、今回のこういった検討で尽力できればと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

#### 田中座長

ありがとうございます。よろしくお願ひいたします。

櫻井委員の就任にともないまして名簿及び設置要綱の変更がありますので、資料１・資料２をのちほどご確認いただければと思ひます。なお、時

間の都合上、説明は省略させていただきますのでご了承お願いいたします。

それでは議題に移りたいと思いますが、議題（１）から（５）は共有事項となりますので、こちらは一気に行いたいと思います。

その後、議題（６）（７）という流れにしたいと思います。

## 議題(1) 市議会総務委員会への報告について

田中座長

まず議題（１）「市議会総務委員会への報告について」、事務局よりお願いいたします。

事務局

それでは議題（１）「市議会総務委員会への報告について」ご報告いたしますので、資料３をご覧ください。

この資料は、本年２月６日に開催された市議会総務委員会において現在の有識者会議における検討状況を報告した際、総務委員会の方々より頂いた意見について要約・整理をしたものでございます。

総務委員会における意見をご紹介しますと、まず「想定利用者（ターゲット）の意見を踏まえた検討委員会の進め方に関する意見」といたしまして、実際に利用する世代の方々に関心をもって将来的に利用してもらおうという見通しをもった整備を行うことが必要である。といった意見や、若い人の意見もしっかりと取り入れながら、若い人の発想で若い人が拠点にしたいと思わせるような幸町地区の整備にしていくべきという意見がございました。

次に、「周辺の街づくり施策を踏まえた検討に関する意見」としましては幸町地区を含めた中央地区において進められている大規模事業について有識者会議で共有し、議論を行っていただきたいといった意見がございました。

続いて、「地区内の呉市立美術館や隣接する市民広場へのスポーツ施設再配置計画に関する意見」としましては、スポーツ施設の再配置が予定されているエリアと有識者会議で検討している文化・芸術のエリアとの間での連携や役割分担できることについて議論し、意見を拾い上げることが必要といった意見や、現在美術館における企画展の際の搬入搬出の問題点など現場の声を聞きながら今後の検討を行っていただきたいといった意見がございました。

最後に「整備スケジュール及び有識者会議での検討状況に関する意見」としましては、有識者会議では有意義な議論がされているという感じを抱いており、今後の議論にも期待したいといった意見をいただいております。

説明は以上でございます。

田中座長

この件について、ご質問はございますでしょうか。

何かありましたら後ほどまたご質問いただければと思います。

続きまして議題（２），「第４回呉市立美術館あり方検討委員会の開催報告」について，横山副座長よりお願いいたします。

## 議題(2) 呉市立美術館あり方検討委員会の開催報告

### 横山副座長

資料４－１，４－２ですが，２月６日に呉市立美術館あり方検討委員会を開催いたしました。

冒頭で昨年末から１月２９日にかけて約１カ月間にわたる臨時休館について状況を説明させていただきました。

原因は空調機の冷媒漏れによるコンプレッサーの故障で機械そのものを取り換える以外に方法がないということだったわけですが，結果的には幸いなことに４０年以上前の機械が広島県内にありまして，さらに今年度の特別展が２本とも黒字になっておりましたので機械を交換して１カ月の休館ですんだということです。それがなければ長期休暇もやむなしという状況だったと思います。したがって，リニューアルの問題は緊急の課題であると改めて自覚したわけです。

本題としましては資料４－１です。これまでのまとめとなりますが，地方公立美術館は美術館の基本的機能と教育的機能の２つの機能を果たす必要があるわけですが，昭和５７年に開館した美術館は基本的機能を満たす施設・設備が十分に整備されていなかったというところが出発点です。

ちなみに，建物のプレートには「入船山公園・美術館・緑の相談室・公園管理事務所」と記載されております。

補助金の問題があったかもしれませんが，専門的な基本的機能を満たすということがあまり配慮されていなかったということです。したがって美術館リニューアルに際しては美術館の基本的機能と教育的機能を満たす設備が求められるわけで，委員会では具体的な面積等の検討に入っております。

また，設置場所に関しては現在地を中心としたエリアでのリニューアルを考えているということです。

裏面を見て頂きますと，美術館の社会教育的機能ということから現状を確認しております。

すでに乳幼児，小学校，中学校，高等学校，大学等が展示室を使用しております。鑑賞事業としては通常の団体鑑賞だけでなく学芸員の解説とともに展示を体験してもらおう美術作品ふれあい事業を教育委員会主催により小学校４年生を対象として開催しております。

また，中学生の職場体験，大学生の博物館実習の受け入れなどを行っておりますし，小学校の図画工作科部会例会への協力や美術作品鑑賞出張講座などをおこなっております。

その他，大事な事業としては貸館がありますが，呉市主催の美術公募展，呉美術協会会員展，その他個人・団体への貸館事業をおこなっております。さらに，美術入門教室といった実技指導あるいはボランティアの育成・指導ということをおこなっております。

今後、施設を造るにあたって、美術館の基本的機能とともに社会教育的機能と2つの機能を果たすべく考えていく必要があるということです。

下の方で「美術館のあるべき姿（コンセプト）」としておりますが、「呉市立美術館は、呉市の芸術文化を大切に守り育てる美術館であり、児童生徒をはじめ市民が集う、芸術文化の情報発信拠点である」という基本的な考え方から美術館のコンセプトとしては「呉の美術」の継承と創造のため、市民が集い、遊び、楽しみ、体験し、交流が生まれることで、新たな呉の文化を生み出す美術館である。というようにあり方検討委員会では基本的な在り方を考えております。記録を資料4-2としてつけていますのでご参照いただければと思います。

**田中座長**

ありがとうございます。ただいまご説明いただいた件について、ご質問等はございますか。

**下倉委員**

呉の美術と聞いて、具体的にイメージが湧かないのですが、どのようなものか教えてください。

**横山副座長**

昨年40周年で「呉の美術」という展覧会をしましたが、今まで呉市のこの地域にスポットを当てた美術史的な展覧会は美術館でもやっておりません。「広島県の」というのはありますが、広島と呉は地域的にも少し違うところがあって、今回は呉市の造った公立美術館ですので、呉の地域で栄えた美術の歴史を辿ったというのが呉の美術展でした。

例えば、南薫造さんという著名な作家がおりますが広島県の作家という見方と呉市ゆかりの作家という見方でかなり観点が違ってくるところがあるわけです。その辺をこれまで美術館としてできていなかったところがありますが、そこを地域に根差した美術館として、まさに市民の方々が「こんな作家が」「こんな作品があったのか」と驚かされている方が多かったのもっとも掘り下げていかなくはいけないかなと考えております。

**下倉委員**

そうすると、個人の作品というか呉市出身の芸術家というかたちで、呉市独特の民芸というかデザイン感とは違うということですね。

**横山副座長**

将来的には民芸部分まで行ければよいですが、まだまだそこは掘り起こしているところです。

**田中座長**

ありがとうございます。その他はいかがですか。

**小野委員**

つばき会館との機能を合体させることを考慮と書いてありますが、現状のつばき会館の建物について呉市の計画などは出ているのでしょうか。

<p><b>横山副座長</b></p>	<p>そのあたりは、私どもはよく知らないのですが社会教育施設という観点では、例えば貸館やアトリエなどというのは同じ社会教育の中で考えることができるのではないかとということです。</p> <p>聞いているところでは、つばき会館もかなり古くなって今後どうするかということも出てくると思いますので、これはあくまで提言です。まだまだ具体的などころがあるということではないと思います。</p>
<p><b>小野委員</b></p>	<p>あくまで考慮だと思うので、呉市ですでに公共施設の計画みたいなものがあるかと思いますが、つばき会館は美術館のようにいつのタイミングで改修であるとかその検討がなされるというのが情報としてあればという感じでした。</p>
<p><b>横山副座長</b></p>	<p>美術館などの耐用年数に関しては、目標として50年使うとして考えていますが、つばき会館については今、情報を手元に持っていないです。わかれば共有させていただきます。</p>
<p><b>小野委員</b></p>	<p>ありがとうございます。もし確認ができましたらお願いいたします。</p>
<p><b>田中座長</b></p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、議題（3）の「呉市入船山記念館運営審議会の開催報告」について、オンラインの戸高委員よりお願いいたします。</p>

### 議題(3) 呉市入船山記念館運営審議会の開催報告

<p><b>戸高委員</b></p>	<p>入船山記念館運営審議会ですが、いろいろと議論をいただいておりますがお渡ししている資料5をご覧くださいればわかるように、私たちは中心に長官官舎を考えておりますが、「入船山」ということで全体を見ていますので、幸町地区全体に対する意見が多かったです。それは当然大切ですが、入船山として考えたときに中心である長官官舎を維持・保存するというのが第一ですが、建物だけに限らず入船山というのは景観そのものが入船山記念館であるというようにもう少し考えを深めていかなければいけないというのが現状の考えです。</p> <p>やはり建物というのは景観というかロケーションに存在するひとつのものなので、建物だけが単独で切り出されて大切かどうかというだけでは済まない、周辺の森の中にある景色、そういったところまで考えなければいけない。</p> <p>委員の皆さんはそういう意味でいうともっと大きくさらに全体で見ただけしている意見が多かったという風に考えています。</p> <p>将来的には、難しいので具体的にはなかなか話が進みかねているところがありまして、現在やはり坂の上、丘の上なので足腰の弱った高齢者や車椅子の方が行きにくい。そういうところについても何か手立てをして多く</p>
--------------------	---

の人が見ていただけるようにやっていきたいという考えも持っております。意見そのものは配布している資料でご確認いただければいいと思いますが、この幸町地区で重要な一つのポイントだと思っておりますので、そういう形で展開していきたいと考えております。以上です。

田中座長

ありがとうございます。ただいま戸高委員からお話しいただいた内容につきまして、ご質問等ございますか。

では続きまして、議題（４）の「中央地区におけるまちづくり事業について」、事務局よりご説明をお願いいたします。

## 議題(4) 中央地区におけるまちづくり事業 について

事務局

「中央地区におけるまちづくり事業について」ご説明しますので、資料6をご覧ください。

この資料は現在中央地区において進めている主な大規模事業の事業内容や進捗状況について、事務局において整理したものでございます。

表の左上から順にいけますと、①が「中央公園防災整備・内神川改修」②呉駅周辺地域総合開発、③大和ミュージアムリニューアル、④まちなか公共空間デザイン、⑤幸町地区総合整備、⑥スポーツ施設再整備（入船山公園多目的広場への陸上競技場整備）を掲載しております。

各事業をもう少し説明いたします。

①「中央公園防災整備・内神川改修」につきましては、現在広域的な避難場所として利用できる芝生広場を整備するため噴水のあったエリアで噴水を壊して工事を実施しております。

併せて広島県の実施事業として、大雨の際の浸水被害を軽減させるために、中央公園内を通る内神川の拡幅と堺川に新たに分水する整備が行われております。

②「呉駅周辺地域総合開発」につきましては、現在、旧そごう呉店の建物の解体・撤去が行われております。解体撤去後の跡地には新たに複合的な施設として商業機能やクリニックモールやフィットネスなどの都市機能、高層マンション機能、子育て支援センター、アーバンデザインセンターなどが整備される計画となっております。

③「大和ミュージアムリニューアル」は、博物館としてのさらなる魅力向上をはかるため大規模リニューアルを実施するものでございます。

④「まちなか公共空間デザイン」は、市役所の前を通る蔵本通りと堺川沿いの中央公園一帯の公共空間を、人中心の歩きやすい空間として再構築し、にぎわいの創出と回遊性の向上に取り組むものでございます。

⑤は今みなさんに議論をいただいております「幸町地区総合整備」について掲載しているものです。

⑥「スポーツ施設再整備（入船山公園多目的広場への陸上競技場整備）」は、幸町地区に隣接する入船山公園多目的広場に陸上競技場を再整

備するものでございます。具体的には8レーンを有した400mトラックや観客席、芝生仕様のスタンドのほか多目的グラウンド、会議室、更衣室などの付属施設、約400台の駐車場などを整備する計画となっております。

このほかにも、中央地区商店街におけるリノベーションまちづくりや広島呉道路の4車線化と呉ICと接続する市道中央二河町線の道路改良計画を進めております。

以上、中央地区におけるまちづくり事業について説明をさせていただきました。委員の皆様におかれましては、これらの事業を踏まえた相乗的な効果や回遊性の観点から幸町地区に求める機能や配置案の検討など今後の議論を行っていただければと思います。

#### 田中座長

ありがとうございます。これまでこの会議でも何度か中央地区まちづくり全体の中で幸町地区をどう考えるかお話があったかと思います。それを受けてかと思いますが、今中央地区で進められているまちづくり事業について整理をいただいたのが資料6かと思います。

こちらにつきましてご質問等ございますでしょうか。

#### 水田委員

私事で恐縮ですが、この間、呉の水産祭りに家族と行きましたが今年は宮島などの牡蠣まつりがなく呉だけが唯一牡蠣祭りを実施していて楽しみにしていました。

以前は呉市役所の西側の公園で実施されていて、今年は川沿いの公園で開催されていて、そこで「せとか」というミカンがでてきており、とても美味しく、家族も楽しみにしています。

家族と牡蠣まつりに行って思ったのですが、すでに議題にコンセプトとして出していましたが、これまで「食」というのが話題にならなかったということ思い出しました。

新聞の書評で紹介されていたのですが真田純子先生が東工大におられて『風景を作るごはん』という本を最近出版されていまして、話題になっているのでご存じの方もおられるのではないのでしょうか。私たちが食べているご飯が実は風景を作っているという著書で、「農村と都市」というのは「消費する側と消費される側」というこの関係をどうにかしないとこれからはやっていけないということ。

牡蠣を食べながら思いましたが、呉というのは島しょ部があり今、公園で食べている牡蠣は倉橋や蒲刈などの「島」からやってきた牡蠣で「せとか」もそうですが、島の豊かな産物の恩恵に授かっているというのを思い出しました。

そういう呉の島しょ部の豊かさというものを象徴する場所というのが何か必要なのではないか、そういったものがこの幸町地区に何か入れ込むことができれば。

例えばこの後の議論の中でもカフェや物販店というのが入っていますが、言い方が失礼になるかもしれませんが盲目的にとりあえずこういうところであればカフェや物販店がいるだろうというような感じで、もしかし



たら入っているのかも知れませんが、少し今申し上げたようなバックグラウンドが入るとより面白いのかな、より若者にも島の魅力、呉の持っている魅力というものを発信できるスポットになればいいのではないかなと。

恐らくこの地図の中にもそういったのではないかと思いますので。

一時的に水産祭りの時にここにやってくるのですが、そういったことも思いました。以上です。

**田中座長**

ありがとうございます。新たな視点として「食」というところ、特に呉という地域性を背景とした「食」というところは新しい視点をご提供いただいたのかなと思います。

その他に、資料6についてご意見・ご質問等ありましたらお願いいたします。

**戸高委員**

6つという多くの再開発があるわけですが、ひとつひとつが大きな事業なのでこれが一斉に横並びで動くわけではないわけだと思えますが、全体としてのスケジュールというか、どういう流れ、ストーリーで順序を決めていくのかという大きな流れをもう少し示されると受けとる側もわかりやすいのではないのでしょうか。

**事務局**

資料の中でそれぞれの事業の下段部分に進捗状況というのを記載しています。工事の状況により進捗状況もずれたりすることもあるかと思いますが、なるべく市民生活あるいは大和ミュージアムのリニューアルにおいてはいろんなところへ影響が大きいということがありますので、なるべくそれぞれが順序だつてうまい具合に行くようにであるとか、一度に工事にかかる機能不全に陥ったり交通渋滞等いろいろとありますので、全体を統括しているわけではないと思いますが、それぞれが連携しながら計画的なもので取り組んでいると思います。

個々の事業で、それぞれの事業期間というのは意識をしながらやっているとは思いますが。それぞれの事業ごとに配慮はしていると思います。

**戸高委員**

ありがとうございます。各事業のスケジュールはわかりませんが、全体のスケジュールそのものの流れというかストーリーがあると、例えば外からくるお客さんを重要視するのであればまず駅と、仮に大和ミュージアムがあつてそれからどういう風にとというストーリーがもう少し見えるといいかなという気持ちでお聞きしました。

**事務局**

はい。

大和ミュージアムのリニューアルにつきましては今年度の予算の中でも全体的に来年度以降に取り組む事業ということで、大博覧会というような形で広げていき、観光というか外から人を呼ぶ部分については調整は行っておりますが、個々の全体の部分となりますとストーリー的なものというのはもしかしたらできていないのかもしれない。そこは今後の課題とし

ていろんな事業がストーリー立てて繋げていくということは研究して参りたいと思います。

田中座長

この会議の中でもこれまで何度かでてきておりましたが、全体のストーリーと戸高委員は言われましたが、街としてのビジョンというのはこの会議でという話ではないのだと思いますが、やはり必要なのかなと私も思いました。

続きまして、議題（５）の「青山クラブ及び桜松館の現状について」、調査を実施した、業務受注者である、日本工営都市空間株式会社よりお願いいたします。

## 議題(5) 青山クラブ及び桜松館の現状について

日本工営  
都市空間

それでは説明させていただきます。

青山クラブと桜松館の現状と補強・改修検討にあたっての留意点についてです。

まず、青山クラブについてです。資料7-1の左側に書かれているのが建物の現状（調査結果）になっております。右側に書かれているのが、耐震補強・建物改修検討にあたっての留意点になっております。

青山クラブについて、大きく分けて「基礎部」と「床面、梁」のふたつについて調査を行いました。

建物の現状についてです。青山クラブの地下フロアのない1階部分の基礎では、松杭（基礎杭）の腐食を確認できました。また、地下1階部分の地盤は、地盤支持力が得られる深さとほぼ同等であり、直接基礎と想定されるということがわかりました。

「地下フロアのない1階部分の基礎」については基礎杭が腐食しているという状態から、現状の建物を支える基礎躯体として十分な機能を果たしていないと想定され、そのため基礎躯体や地盤部分の全面的な補強・改良が必要になるものと想定される、ということが、耐震補強・建物改修検討にあたっての留意点となります。

地下1階部分については、こちらは現状の建物を支える機能を果たしていると想定されますが、建物の使用用途に応じて、基礎躯体部分の補強が必要な場合があるというのが耐震補強・建物改修検討にあたっての留意点となります。

次に「床面、梁」の建物の現状についてです。

地下1階の床からのレーダー探査では梁配筋が確認されなかった状況です。1階～3階の床版は、許容される積載荷重に比較的余裕がある箇所も存在するけれども、梁は余裕がないという状況がわかりました。

これらを踏まえすと、地下1階を活用するためには使用用途を踏まえた上で、設計段階で詳細な調査を実施して、その上で補強方法について検討する必要があるということになっております。

1階から3階につきましては、既存の耐震診断結果や今年度の建物調査結果を踏まえると、床面や梁の補強が現段階でも必要な状態であるため、

建物の使用用途に関わらず耐震補強のために多くの補強材（鉄骨ブレース等）の設置が必要になります。

こういった補強によって、天井高が低くなることや、開口部や室内の面積が狭くなることが想定されます。また、建物の利活用が定まった後に梁・床版の補強を行うための詳細調査が必要になってくると考えております。

次のページは桜松館の建物の現状と改修にあたっての留意点です。

こちら構成としましては青山クラブと同様になっております。

まず、基礎部の調査結果をご説明いたします。

桜松館にはそもそも基礎杭がないことを確認しました。また基礎梁の鉄筋は、斫りによって調査しましたが腐食は確認されないということがわかりました。こちらに関しての留意点は、基礎杭が確認されなかったことから建物は当時の設計として直接基礎によって設計されていると想定されます。鉄筋の腐食も確認されなかったことと、躯体の損傷も著しいものは確認されなかったので、当時設計した基礎としての機能は果たしているものと想定されます。

ですが、現段階の法規制や荷重条件を合わせ、建物の利活用の方針を決定した上で建物の利活用方針を決定し、補強・改修の詳細な設計を行う段階で、基礎地盤の支持力を調査し、建物の使用用途に応じた地盤や基礎躯体の補強を検討する必要があるということが今後の利活用に向けた留意点となっております。

続いて、桜松館の「床面、梁」についてです。

調査の結果から地下1階の床面については床面が直接地盤に支持された土間コンクリートであるものと想定されます。これらのことから、土間コンクリートである場合にも、配筋が無いことにより、ひび割れ等の懸念は存在するので、利活用の方針が定まった後に、地下1階の床面が土間コンクリートであるか詳細な調査を行い確認する必要があるということが留意点となっております。

続いて、「1階と2階の床版」についてですが、こちらは青山クラブと同様ですが、床面については比較的余裕がありますが、梁についてはこれ以上の荷重が許容されない余裕がない状況になっております。ですので、耐震補強のために、こちら青山クラブと同様に多くの補強部材（鉄骨ブレース等）が室内に出てくることから天井が低くなったり、開口部が狭くなるものが想定されます。

少し割愛しておりますが、調査の内容と建物の改修にあたっての留意点は以上となります。こちらの調査と改修方法の留意点につきましてもう少し詳しい内容を3月5日に建築分科会として委員の皆様とお話いたしました。その分科会での意見をまとめたものが次の資料7-2でございます。意見として出ましたのがこちらに示す「建物の補強方法の検討に関する意見」「建物の保存・利活用の考え方に関する意見」「外壁の改修（保存）検討に関する意見」「呉市立美術館の機能配置に関する意見」これら4つの意見が大きくありました。

まず「建物の補強方法の検討に関する意見」としましては、調査の結果梁の配筋が非常に少ない状態のため、使用用途に応じた設計荷重に対応できるように、梁の十分な補強が必要になるということでした。

それらの補強によって天井高の低下やフロア面積の縮小などの制約が生じることも考えられるため、床面を一部撤去して、天井の高さを確保することも方法の一つとして考えられるけれども、この場合も、梁の補強は必要と考えられるため、広い空間での使用が難しくなる可能性もあるというご意見もいただきました。

次に「建物の保存・利活用の考え方に関する意見」になります。

建物の構造的な特徴について調査し、建物の設計が歴史的に貴重なものであると判断される場合には、現状の状態を大きく変えないことや補強前の状態に戻す”可逆性”のある工法で考えることも重要というご意見がありました。また、費用面だけが建物保存活用方針の判断基準とならないよう建物を使用する方向性を決定した上で補強・改修に必要な費用を算出していくべきであるというご意見がありました。

次に「外壁の改修（保存）検討に関する意見」になります。

スクラッチタイルを竣工当時のような形で復元するという議論がでましたが、こちらに関してはスクラッチタイルにこだわらず改修した場合は、経済的な観点で考えて補強・改修した場となりますが、非常に寂しいものになると思われるため、外壁の補強・改修をどのように行うのか十分に検討していく必要があるのではないかというご意見がありました。

最後に「呉市立美術館の機能配置に関する意見」についてのご意見です。

美術館本館については屋根部の耐震性は無いもののその他の箇所については耐震性を有する結果となっております。このため美術館本館をどのように検討していくのか美術館機能を幸町地区内でどのように配置するのが今後の検討のポイントになるというご意見をいただきました。

機能の考え方の一つとして、美術館機能を青山クラブ側のエリアへ配置し、現在の美術館本館については他の用途で使用することも考えていましたが仮に現在の本館の位置に美術館機能を配置する場合は青山クラブ側へ美術館以外の機能をどのように配置するのか検討する必要があるというご意見がでました。

簡単ですが、以上で青山クラブ・桜松館の現状、補強・改修検討にあたっての留意点の説明を終わりにしたいと思います。

**田中座長**

ありがとうございます。こちらの件につきましてはさきほどお話しいただいた通りこの会議に先立ちまして3月5日に建築分野に関係する4名の委員の方々、水田委員・松野委員・下倉委員と私との意見交換の場を設けさせていただいております。その際の内容につきましては出席委員を代表しまして松野委員にコメントをお願いしたいと思います。よろしいですか。

松野委員

はい。建築専門の分科会で出たお話では大変丁寧に耐震診断の説明をしていただいた上で、今まで使われていた使い方に戻すだけでもかなりの改修をしなくてはならない。その改修をした段階で重量が増えますので基礎の補強が必要になってくるということも想像できるであろうと。さらに、用途によってはそれ以上の補強をしなくてはならない。そうすると建物の動線がかなり制限される。横方向、下手すると縦方向も階高が足りなくなり制限されるということが想定されますので、個人的な意見を含めますが床面積すべてを使うというのは難しいだろうというのが考えられます。ただ、コンクリート自体はかなり丁寧に打たれているという印象がありますので、先ほど説明がありましたが鉄筋に腐食がないような状況でありますので、建物自体は比較的健全な状況ではありますが、中に入っている鉄筋が少なすぎるということが現段階で分かっていることかなと思います。

田中座長

ありがとうございます。この件につきましてご意見等がございましたらお願いいたします。

これで議題の（１）～（５）まで、先ほど申しました皆様と共有させていただき情報の報告事項となります。

ここからが本日のメインとなります議題（６）「幸町地区に求める機能の具体的な内容について」に入ります。配布しております、【資料８】をもとに進めたいと考えております。まず、資料の内容に関しまして、事務局より説明をお願いいたします。

## 議題(6) 幸町地区に求める機能の具体的な内容について

事務局

資料８の説明の前に、さきほど小野委員より質問のありましたつばき会館について調べてまいりましたのでご報告だけさせていただきます。

つばき会館は昭和５８年度に建設されております。予定では令和１５年、約１０年後に大規模改修をする予定ですがその後も当面使用していくこととしております。以上でございます。

それでは本題に戻り、議題（６）「幸町地区に求める機能の具体的な内容について」のご説明させていただきます。資料８－１をご覧ください。

前回の第４回会議においていただいた意見・提案を事務局にて整理したものでございます。説明は省略させていただきます。

続きまして、資料８－２をご覧ください。

資料８－２につきましては議題にあります幸町地区に求める機能の具体的な内容についてご議論を頂く資料としてこれまでの会議において委員の皆様から出された意見・提案をもとに幸町地区に求める機能の具体案を事務局で作成したものでございます。具体案につきましては中間とりまとめにおいて示されている幸町地区に求める機能の３つの大きな機能ごとに分類して整理しております。また、その他、地区内において検討が必要な事項や勘案すべき事項についても整理しております。

## 田中座長

これからの意見交換にあたり、当資料をたたき台として内容のブラッシュアップをおこなっていただければと思います。よろしくお願ひいたします。

## 事務局

ありがとうございます。

この議題に関しまして本日欠席の岡委員ならびに福永委員よりコメントをいただいておりますので、事務局より報告をお願いします。

まずは岡委員のコメントからお伝えいたします。

岡委員より中間とりまとめの内容や今後の検討に関してご意見をいただいております。ご意見につきましては事務局において岡委員を訪問し、中間とりまとめの内容について説明した際にいただいたものでございます。

まず、整備コンセプト及び幸町地区に求める機能の内容については、これまでの有識者会議での方向性と概ねまとまっているとのご意見をいただいております。その上で幸町地区に求める機能についてご意見をいただいております。

さきほど少し話題に上がりましたが、飲食・物販・宿泊機能に関しまして、仮に整備する場合は青山クラブへ複合施設として整備することを考えている。その際は、格式の高い雰囲気ではなく幅広い層の方々が親しみやすい雰囲気になればいいと感じている。幸町地区は来訪者が文化・芸術・美術を一次的な目的として来訪できるよう整備し、これらの目的で来訪された方が飲食・物販・宿泊を二次的な用途で利用されるような形で検討していくことがバランスの取れた計画になるのではないかとご意見をいただいております。

次に美術館機能に関しましては、芸術・美術に関するコンテンツが例えば四半期に一度更新されることで、呉を訪れる理由が様々な人に生まれ、美術館だけを訪れて次の目的地に行くのではなく、青山クラブ・桜松館のエリアで飲食やお土産を購入できる機能を備えることで、幸町地区に滞在しようと思える関係性になるのではないかと。仮に美術館機能を飛躍的に向上させる場合は、かなりの投資が必要になると想定される。また、そのための企画・展示を行う人物（キュレーター）も人を惹きつけるような著名な方を誘致しなければならないことも想定されるが、魅力あるコンテンツとすることで、よい施設になる要素を十分に備えている印象を持っている。

続いて、呉の歴史の機能に関しましては貴重な休みの日を利用して呉ならではの歴史の要素を深いところまで知ることができ、エンターテインメントとして楽しみ訪れたつもりが結果的に勉強になったと感じることができるプロセスを想像している。

例えばこのエリアで宿泊機能を備えるのであれば、宿泊した方々が夜の美術館や入船山記念館への入館など特別に体験できるようなコンテンツを提供できるとよいと考えている。

最後に今後の検討に関する全体的なご意見としましては、このエリアで何を起点に整備していくのが明確にされると、検討が進みやすくなるのではないかと考えています。こうした考え方を現在の幸町地区の用途から考えると美術・芸術と隣接した場所に宿泊できるという点を魅力にできる可能性があると考えています。ただしこうした点を魅力にしていくためには、美術・芸術面を重点的に変えていく必要があると感じています。デベロッパーの視点として青山クラブ・桜松館の施設を補強・改修のための費用を投資し、これを回収するための利益を生み出す施設にするためには相当に多くの人を呼び込む必要があると考えています。といったご意見をいただいております。

委員の皆様におかれましては、岡委員の意見を参考にいただき機能の具体案並びに機能の配置案をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

続きまして、福永委員のコメントも読ませていただきます。

これまでに様々な委員の見地から意見・提案がなされてきたが、すべての意見を取り入れることは現実的ではない。今後は事務局において意見を整理し、有識者会議の中で提示していただきながら取りまとめていく必要があると考えている。

そうしていくことで議論が進みやすくなると考えている。幸町地区の整備イメージとして、美術館を中心とした、文化・芸術ゾーンとして魅力を高めていければよいと感じている。現在の美術館機能は展示スペースが限られており、手狭であることや収蔵機能が展示スペースのある本館と離れていることからリニューアルにあたっては現在の本館の建物の延床面積では対応できないものと考えられる。このため本館敷地と桜松館を一体的に活用した形でリニューアルを行うことが方法のひとつではないかと考えている。

ただし、リニューアルにおいて必要とされる延床面積などの建物の規模間を勘案し本館敷地を中心としたエリアの広さの中で現実性について検討することは必要であると思われる。機能配置にあたって、リニューアルを考えている美術館の規模感と美術館本館の建物のあり方がポイントになると考えている。幸町地区の総合整備において、青山クラブ・桜松館の建物のあり方や美術館のあり方が中心になっているが、幸町地区の歴史・ストーリーを伝えて未来へ繋げていくためには入船山記念館の各施設のあり方についても考えていく必要がある。

この部分に関してはこれまでの会議の中であまり議論されていないように感じたため、具体的機能や機能の配置検討のタイミングで検討すべきではないかと、個人的な意見としては例えば、郷土館や歴史民俗資料館の展示機能の一部を青山クラブ側で持たせることも考えている。入船山記念館の持っている展示機能について、展示方法の工夫や収蔵機能を整理するなどして魅力の向上に繋げていくことも必要ではないかと考えている。

という意見でございます。以上でございます。

田中座長

ありがとうございます。

それではこれらを踏まえまして、本日は先ほどの事務局の説明・報告を参考にいただきながら資料8-2の左側に記載されている機能の具体案（これまでの会議で出てきた意見を整理したもの）をベースに、委員の皆さまから、「追加すべき機能」や「内容についての深掘り」というか解像度を上げていくお話であったり、「資料の中に記載されている機能案の見直しや修正すべき点」などについてご意見・ご提案をいただきたいと考えております。

また、いただいた意見・提案を基に、議題7の中で、地区内の配置案について意見交換を行いたいと思います。

配置案については議題7でお話しできればと思いますので一旦、機能のところにつきまして資料8-2に追加したらなどのご意見をいただければと思いますがいかがでしょうか。

**水田委員**

機能といいますか、実務的な話でまず申し上げたいのが耐震性の話と樹木の整備の話がこれまで挙がったと思いますが、ひとつ挙がっていないのが防火施設についての確認が必要だと思います。現在このエリアでどこに消火栓が設置されているのか、旧司令長官官舎が重要文化財に指定されていますので、放水銃が設置されていると思います。

通常であれば対角線上にあると思いますが、それがこの地図上でどこにあるのかというのが示される必要があると思います。

**田中座長**

ありがとうございます。こちらについていかがですか。

**事務局**

次回に示させて頂きたいと思います。

**松野委員**

追加する機能というより、美術館の建替えについて確認といいますか、聞いておきたいことがあります。美術館は現在の位置でリニューアルしていくということが肝になっていると思いますが、上に伸びてトータルの床面積が増えてという可能性はあるのでしょうか。

**横山副座長**

あとで具体的な数字をお示ししたいとは思いますが、イメージで言うと現在の床面積の1.5倍は最低限必要だと思っています。

**松野委員**

現在の位置で1.5倍ですか。

**横山副座長**

はい。あくまで最低限ということですが。

**松野委員**

ということは、美術館の機能を青山クラブに無理やり持っていく必要はないということでしょうか



**横山副座長**

資料 8-2 の右側の地図を見ていただきたいのですが、今、美術館の本館が建っているところだけで 1.5 倍にはできなくて、桜松館のエリアも含めた中でという考え方でおります。

**水田委員**

大事なことなので申し上げたいのですが、まずこのエリアの都市計画上の地区指定、あるいは史跡、風致地区等の指定はあるのでしょうか。その辺りが建物の高さ・構造・用途に直結すると思いますのでその辺の法令上の指定についても確認が必要かと思えます。

**事務局**

都市計画上の用途は第一種住居地域で 3,000 m<sup>2</sup>規模の建物ということで指定されています。次回に調べてお答えします。

**水田委員**

はい。その辺についても防火施設と合わせて次回にお願いします。長官官舎の山がありますが、市の史跡に指定されているようです。史跡も恐らくここが指定地という線を引いているはずですよ。そのあたりも美術館の本館と裏山との間に境界線が引かれるのかというあたりも図面が必要になります。

**事務局**

具体的にどこまでというのはまた調べさせてください。

**水田委員**

お手数ですがよろしくお願いします。

**田中座長**

他はいかがでしょうか。

**下倉委員**

加える機能というか、考え方の追加みたいな感じですが、隣に陸上競技場ができることによってそこを利用する人が青山クラブを利用しないわけがないということで、スポーツに関連したことがあるということを考えると、例えばホテルなども高校生が合宿で使うとか、呉市の中高生であれば割引をするとか、そういうプログラム等も。

さきほど岡委員の夜に美術館に入れる特別なプログラムがあるなど、貸室などもたくさん作ると思いますが、値段設定なども考えていかなければいけないというか、陸上競技場ができることによる若者が集う場所がすでに事務局がまとめた中にも入っていますが、陸上競技場と関連するという考え方を入れるといいかなと思いました。

**田中座長**

その他はいかがでしょうか。  
では戸高委員お願いします。

**戸高委員**

求める機能というのはある程度出尽くして、この中から具体化していくというのはわかりますが、一番肝心の青山クラブの建物をどうするのかがはっきりしないと、現実にどれだけのものをそこにおけるかどうかという問題は、この建物を残すのか、建替えて半分新しいビルにするのかそ

の辺が固まらなると使える面積・容積・その他使い方について、そこが決まらなるとこれ以上進まないところまで来ているということだと思います。青山クラブの建物についてどうなのかというところをもう決める時期が来ているので、それを決めないといろんな機能をここにどれだけ入れたのかということを考えても、それだけのスペースがあるのかなのかという即物的な話になった時に止まるので、保存したいとか建替えた方がいいとか今までもたくさん議論がありました。市の事業でするのである程度市の考えを市として落としどころとかこういう形でいきたいということを示してもらわないと、具体的に進めないところまで議論は来たのかなという印象があるので、スケジュール的にどのへんで最終的な建物に対する決定ができるのかというあたりをお聞きできればと思います。

## 事務局

これまでのみなさんの意見を聞きながら、まずは機能的なところでどういったことに使えるかというところを議論していただきながらその場所決めを今からしていく。今回美術館の方から現状での建て替えというお話がありました。美術館が大きなポイントになるかなということ、横山館長からお話をいただきましたが、もう少し機能的なものということでこのくらいの面積が要するところがやっと出てきましたので、現実的に可能な建て替えなのか、もしそこで難しければ桜松館も含めたようなエリア設定も提案されていると思いますが、次の段階までもう少し時間を頂いて配置が決まった段階で、面積がどのくらい要するからどういう形で残すのか或いは、建替えるのか減築していくのかというところを決めさせていただければと考えております。

おっしゃることは良くわかりますが、やっと美術館のことが出てきましたので、来年度中にも有識者会議の方から意見を頂きながら、市としての策定案も議会の報告も含めて決定していかないといけないのでスケジュールについても重々認識をしております。

もう少し時間をいただいて、機能的なところの配置までやらせていただければと考えております。貴重な意見ありがとうございました。

## 田中座長

ありがとうございました。

この機能のところは今回で出し切っておこうという趣旨なのかなと思います。

その他にございますか。

## 小野委員

建物や配置のことはまたあとでということなので、内容について意見させていただきます。

「呉の歴史を伝え、感じる施設」の中に「この世界の片隅に」の原画などの展示というものが今までの意見でも出てきていたなと思いますが、この1作にとどまる必要はないのではないかと私からは思います。

呉がロケ地になった作品というのは、映像作品だけでも非常に多いです。他の地域には見られないくらい、恐らくロケーションの多様さというのがこの街の歴史だと思います。

そう考えた時に呉のロケ作品であるとか、それに関する資料が集まっている場所が今時点ではやはりないかなと考えています。

様々なことがあります。さきほど美術館についてはここの全体が美術館を中心とした文化複合エリアになると私は今までの話から考えています。呉の美術というものを大事にするとさきほどおっしゃったのが、去年の40周年の展示を見せていただいて、呉の歴史というのは本当にすごいなと思わせてもらいました。

今までの歴史を紐解いたときに恐らく、戦後の映像や写真なども歴史になってきているのだと思います。呉の作家と言ったときに、例えば去年の明和電機さんであるとか、新しい時代を切り開いてきた作家さんたちがここから生まれているということが、見える状況にはなかなかないなと思っています。

呉というのが歴史の中ではどうしても大きな歴史、大局の歴史で語られるなかで市民とか市井の人からどんな人が生まれてきたのかということ語れる場所が恐らく呉の文化を知れる場所なのだと思います。そう考えたときに、映像文化アーカイブではないですが、そういったものも必要なのではないかと考えます。

文化振興課さんが、文化財保存活用地域計画というのを今年度策定されたかと思っています。その委員会の中でも出てきていたのが、箱モノが必要なわけではないけれども、文化に関してどこに相談にいったらいいのか拠点が必要だという話は出てきていて、それになり得る場所なのだと考えているので、呉の今も生まれ続けている資料だとかをどういう風に残していくのかということがこの場所に機能として備わった方がいいのではないかと考えています。

さきほど水田さんから意見のあった「食」に関してですが、これも文化財保存活用地域計画の中で、文化というのは非常に広くてももちろん食文化もものすごく大事な文化であるということになりました。

この場所のコンセプトが「呉の歴史と文化を未来へ」ということがはっきりしているのであれば、文化の中に「衣食住」すべて入るわけです。それが何なのかをこの場所に来れば、呉市民がちゃんと考えることができる。私たちの文化が何なのかをちゃんと考えることができるという機能がコンセプトとしてはっきり持っていれば結果的に、ここに書かれている、飲食店・宿の機能にすべて反映されるという風に考えているので、しっかりとコンセプトの部分を忘れずにとということと、機能として補足するのであれば今言った資料というのが、映像・写真等の現代の資料も入ってくるのではないかと考えます。

河崎委員

小野委員が言われましたが、私も映画のロケ地のことが書かれていなかったもので、この部分は伝えることが必要だと思います。

先日、お店に「孤狼の血」のグッズを買いに来られた方がいらっしゃったのですが、20代の息子さんとお母さんと呉に来たきっかけが「孤狼の血」でお母さんの方は「この世界の片隅に」を観られていました。

実際に大和ミュージアムでも「この世界の片隅に」をきっかけで来られている方、特に女性の方が多いです。これは呉の財産なので、例えば美術館の常設展じゃなくても企画展でもいいと思います。いろんなコンテンツがあり、「男たちの大和」だとか呉の歴史のものもありますので、その時代と一緒に企画展といったものもできるのではないかと思います。以上です。

#### 小野委員

さきほどコンセプトの話をしてきましたが、物販施設やお土産販売というのが書かれていますがここにもコンセプトが重要だと思っています。

呉のお土産というのはいっぱいあるので、ここに物産館のようなものを作って美術館を中心とした文化複合施設に合うのかというのがある。そう考えた時に、美術館を中心とするのであれば美術館が呉の美術というのをテーマとして存在してくれば、ミュージアムショップは結果的にお土産屋さんになる。つまり、呉地域の作家さんの作品が集まっている場所が今はないです。たくさんいらっしゃるわけです。

例えば書籍であったり、映画等、しかもそれにまつわる商品というものを一つにまとめている場所がちゃんとあれば、それが観光拠点にもお土産屋さんにもなるわけです。歴史と文化というものがベースにしっかりとある施設になれるかどうかでその物販店はちゃんとお土産屋さんになるということがあると思います。

一例を挙げますと、先週末に中央公園の川沿いのマルシェイベントで埼玉から来たという方がいらっしゃって、「この世界の片隅に」のファンの方で年に4回くらいワンシーズンに1回は来ることにしているという方とたまたま会ってお話をしましたが、そういう方たちはこの街の中で文化拠点を探していると思いました。

公共も民間もいろんな本が集めてあったりとか、そういう風にファンとしてこの街を楽しめる場所というのを感じたので、そういう拠点にここならなり得るんじゃないかと改めて感じたところです。以上です。

#### 横山副座長

呉市立美術館では、細々とですが呉にまつわるものをすでに置いています。あちこちに回るのではなく、美術館に来たらそのショップに今は張り子や作家の作品などがあり、ちょっとあるだけでみなさん買っていかれたりします。ですので、小野委員の意見には非常に賛同いたします。

#### 水田委員

ちょっとひねくれているかもしれませんが、お話を聞いていて私なりに感じたことは、美術館に付属している販売店が販売店としての機能を集約するのではなく、多様なものがここにあっても良いのではないのかなど。

例えば、さきほど申し上げたマルシェのようなものもあるしアーティスティックなものも売っているエリアもあるというか。さきほど戸高委員も

おっしゃられたように、これだけ大きなキャパシティがあるわけですからいろいろなものがあっても良いのかなど。差し出がましいかもしれませんが、美術館が求められる機能も雑多なものというか、そういったものもこれからの美術館には必要なのではないかなど、お話を聞きながらずっと思っていました。マルシェのようなものがあるし、ローカルなものがあるし、高度な芸術的なものもある、そういった多様なものがこの、コの字型の建物の中に混ざっているといったものもあるかなど思いました。

**田中座長**

ありがとうございます。その他はいかがですか。

**下倉委員**

最近、公共施設の中にチャレンジショップというものを作って、例えば須賀川市民交流センターにあるチャレンジショップの例ですが一年間限定で月1万円とか。呉の芸術家の方で自分の作っている物を売りたいとか、なにか新しくモノを売る事業をしたいという人がチャレンジできるようなところで、一年間やってみて成功したら次はレングス通りに行くか、みたいなワンクッションおけるようなところがあるといいなとちょっと思っています。

**田中座長**

ありがとうございます。その他はいかがですか。

**河崎委員**

小野委員と入船山秋祭りをやっていますが、「楽しいイベントに来たらそこに美術館があった。そこに歴史を見られる入船山記念館があった」というところでまさにその形を作っていただきたいと思っています。これからの美術館は市民が集う場所に無いと難しいのではないかと考えていて、まずはここ全体が、市民が集いやすい場所、幸い隣に陸上競技場ができるかもしれないということであれば公園や天然芝やくつろげる場所を用意した結果、そこにたまたま美術館があったというような形の場所になってほしい。「美術館に行って」といってもなかなかそれは難しいのでいつも遊びに行っているところが美術館だった、入船山記念館だった、という場所になってくれたら子どもたちが遊びに行った場所が入船山記念館であればアドミラル東郷の離れがあったとか、大人になって気づくことだとは思いますが、そういった感じで自然に行ける場所になってほしいと思います。

以上です。

**田中座長**

ありがとうございます。ご意見も大体で尽くしたのかなというところで、基本的には資料8-2にあるものがベースということかと思っています。それに加えて本日いただいたものとしては、スポーツに関連するもの、文化に関連する資料の集積がなされている場所、映像のアーカイブ等もあるようなこれからの時代の文化資料が集積するような場所のようなところ。

文化という意味では「食」というのも呉の文化としての食があるというのかなというお話、あと物販は少し深堀していただけたかなと思っています。コンセプトにあった物が買えるような物販施設、もしくはもう少し多

様なものがあったとしてもいいのではないかと、このあたりは今後の議論かと思いますがいずれにしても物販は必要だということで少し深掘していただけたかなと思います。

また、物販に関連してチャレンジショップというアイデアもいただきました。最後に公園のような、天然芝が敷かれていて子どもたちが自然と集まるような場所、そういうところになればいいのではないかとというのが本日いただいた追加の意見かと思います。

それに加えて、防火、風致地区、史跡指定の話、その辺は次回に向けてご確認いただければと思います。

以上で、意見・ご提案を踏まえて機能の具体性が出てきたとっております。本日の議論を踏まえて、事務局に整理していただき次回の会議で改めてご確認いただく時間を取れたらと考えております。

議題（６）は終了ということで、残りの時間を使いまして議題（７）「機能の具体的な内容を踏まえた、幸町地区内での配置案について」に入りたいと思います。

## 議題(7) 機能の具体的な内容を踏まえた幸町地区内での配置案について

**田中座長**

この議題に関しましては、先程の議題６の議論を踏まえ、幸町地区内における機能の配置案についてご意見・ご提案をいただきたいと思います。

意見交換に当たり、議論の論点について確認したいと思います。

【資料９】として、「機能の配置案の検討に当たっての論点整理」の資料を配布しております。

資料について、事務局より説明をお願いします。

**事務局**

それでは議題（７）「機能の配置案の検討に当たっての論点整理」を説明させていただきますので資料９をご覧ください。

この資料は先ほどの議題で議論いただいた幸町地区に求める機能の具体的な内容を踏まえ、幸町地区内における機能の配置案を検討いただくにあたっての論点を整理したものでございます。

今後の検討の論点としてまず、美術館の現状と課題を踏まえ美術館の本館と別館の機能を集約し、幸町地区内での整備場所を現在の本館を基本的に配置するのか、またはそれ以外の場所で地区内での再配置を考えるのか検討する必要があります。この検討を受けて青山クラブ・桜松館のエリアへの機能配置の検討を進め配置する機能を踏まえて、青山クラブ・桜松館の建物について建物の全部保存、建物の一部を保存し活用または建て替えなどについて活用方法に応じた整備内容や改修方法を検討といった今後の議論の流れを整理したものであります。この資料につきましては今後の議論を円滑に進めていくための参考にしていただければと思います。よろしくお願いたします。

**田中座長**

ありがとうございます。ただいま事務局より説明がありましたが、幸町地区内への機能配置の検討に当たりまして、まず美術館、さきほどまでも

何度かでてきておりますが、「美術館の機能をどのように配置すべきか」という点が、ひとつポイントになろうかと思えます。

また、美術館機能の配置を検討し、それを踏まえて、青山クラブ・桜松館の建物の現状を踏まえた機能配置を検討し、配置する機能を踏まえた、建物の整備内容・利活用の方向性を検討するという流れかと思っております。

今回は残り時間も限られておりますので、配置案についての頭出しだと考えておまして、今後、引き続き議論できたらと考えております。今回は頭出しだと考えておりますが、まずは横山副座長からあり方検討委員会を踏まえた美術館機能の配置についてお話をいただければと思えます。

#### 横山副座長

冒頭で少し報告をさせていただきましたけれども、資料8-2の上から見た地図をご覧くださいればわかりやすいかと思えますが、美術館が美術館としての基本的機能を果たさない状況でありますので、最低限果たさせるような設備等が必要である。根本的にはコレクション展と企画展は、展示面積が少ないために同時開催できない状況である。

そして、収蔵庫が道を挟んで離れている。この二つの課題を最低限解消しなくてはいけない。具体的な機能や部屋の面積などの話を何度かしてきていますが、この前のあり方検討会でまとまったことを確認しながらお話していきたいと思えます。

まず、地図を見ていただいて、現在の美術館は本館を中心として桜松館を含めたエリアでのリニューアルを求めたいと考えております。

その理由ですが、これまで40年以上市民に親しまれた場所というだけではなく、下の方に国道487号というのが走っておりますが何十メートルか離れているだけですが、このロケーションが緑あふれる故山苑ということも含めてなかなか捨てがたいというか非常に大事ではないかと考えております。

地図でいうと美術館の上の故山苑ですけれども、庭園を含めたエリアを使用して屋外展示やあるいはコンサートですとか、小野委員などもやっていらっしゃる秋祭りであるとかそういった展開も考えていくことができるだろうと。そして、さきほど言いましたが国道から離れているということで作品の搬出入のときの交通渋滞とか環境被害等が少ないだろうということです。もうひとつ桜松館の建物ということで考えますと、美術館にはホールというものがない。コンサートをやるにしても非常に狭いところでやっているということもありますし、講演会も非常に狭いところでやっています。せっかく桜松館のホールがありますので、それを取り込んだ形の中で考えていけないかなということがあります。

一体として利用するというところで、建物のデザイン云々というのはあとの問題ではありますが、ミュージアムコンサートだけでなく講演会や研修会などができますし、今まで大勢の観客を集める可能性のある講演会などは美術館にスペースがないので別の場所を借りるということもあったというところでは。

もうひとつは美術館別館がありますが、この上にはカフェや簡単な展示スペースがあるところですがこれは廃止しても構わないだろうと。道のこちら側に集約するという形で。

ただ、せっかく今別館の地下には収蔵庫がありますので、あるものをわざわざ壊す必要はなく、例えば現在でも他の地区の作品を預かっていたりということもありますが、大和ミュージアムにしても収蔵庫不足と聞いておりますので、今後も使い勝手はあるのではなかろうかと考えております。

具体的な数値でいいますと、展示スペースが現状では1,045.57㎡なわけですが、これに二つの展覧会がいつでもできるという状況にするには最低1,700㎡必要だろうと。収蔵スペースは現在508.25㎡しかないので、もう少し増やしておく必要はあるだろうと。この二つを基本的な考え方として、事務所やトイレ、エレベーター等も当然入ってくるわけですし、現れない設備としては一時保管庫ですとか展示準備室、監視員の部屋などが必要になってきますので、エレベーター室など全部含めてですが現状では3,210.63㎡ですが、約1.5倍として4,850㎡くらいの床面積の施設が必要ではないかと考えているわけです。

もうひとつ、例えば桜松館なりあるいは青山クラブなりの活用を前提として考えてみると、一番ネックになるのは展示室の天井高のことだと思います。今の美術館の1階部分がコレクション展などをやっておりますが、現在3.35mしかありません。今の美術館の考え方としては最低4.50mでその上にスポットライトなどの設備がありますのでもっと高くなるわけです。2階部分は天井高が4mです。標準よりも低いので同じ作品でも、最近の作品だけではなく大きい作品がいっぱいありますし、最初にエレベーターに乗っていただいておりますが、あれは搬入用エレベーターではないですね。このようなことを含めまして、それから一般のお客様が出入りできる場所とオフリミットのところが明確に分かれていないとか建築上の問題は山ほどありますので、少なくともそこところは徹底的に考え直していく。美術館の考え方としては、外観のデザインということには別にこだわりはない。ですので青山クラブに続いて桜松館もどうするのかという本格的な議論はこれからだと思いますが、今の設計の考え方でこれからいかようにもなると思うので、機能としてはホールの部分はちゃんと残して頂きたいというくらいで、あとは収蔵スペースなどが確保されればいいかなと思っています。

もうひとつは、今あげた面積の中には喫茶コーナーや厨房などは入っていない。あくまで美術館の基本的な機能を果たすものという発想です。

2階建てになろうと3階建てになろうと場合によっては駐車スペースの問題で、現在も一般用の駐車場と業務用の駐車場が分かれておりませんし、通常は美術品梱包輸送車というのは4tサイズのロングボディーなのですが、今の美術館の搬入口には入りませんので通常の入りのところから入れてということをやっていたりするわけです。それを考えるとデザインの方向性としては1階部分を駐車場にするのもありかなと。



ただこれまで美術館のお客さんから聞いた感想としては、趣があって歴史的な建物ですかとおっしゃる方もいらっしゃいます。道を挟んで総監部は明治 40 年の建物ですが美術館は昭和 57 年の建物ですのでそういうものではありませんとお答えしますが、あの雰囲気ということであればデザインに活かしていただきたいということです。

なにかご質問があればお話しできることは致します。

**田中座長**

ありがとうございます。横山副座長にお話しいただいた内容について何かご質問がございましたらお願いいたします。

**水田委員**

現在の美術館本館の延床面積ではなく建築面積は何㎡くらいでしょうか。

**事務局**

今の建築面積は約 1,000 ㎡です。

**水田委員**

4,850 ㎡ということは、これが 5 床必要ということですよ。

**横山副座長**

今の建物の床面積だけではなく、桜松館まで含めた中で考えるということです。

**下倉委員**

館長のおっしゃっていることはすごく納得していて、例えば美術館本館になくてもいい機能というのはホール以外にどのようなものが考えられるのか教えていただきたい。

**横山副座長**

例えば、今日も話題に出ましたがショップの関係ですね。展覧会に直接まつわる図録などは展示場の出口などにあった方がいいでしょうけれども、それ以外の呉市の作家ですとかは美術館の中になくてもいいわけですので、桜松館を含めた中で考えられるでしょうし、何よりも喫茶の類ですね。

**下倉委員**

バックヤード的なものは本館に収めたいというところですよ。

**横山副座長**

基本的にはそうです。

**田中座長**

ありがとうございます。

それでは資料 9 をご覧いただければと思います。

ただいま美術館機能の配置につきまして横山副座長からは場所としましては（1）現在の本館敷地を基本に桜松館を含む形で配置ができたというお話だったかと思います。

そこにつきましてご意見等ございましたら伺いたいと思いますがいかがでしょうか。

## 水田委員

配置の具体案について意見をする前に確認したいのですが、ここで私たちが配置について議論をして次回か次々回あたりには最終的にこういうレイアウトでいきたいと思いますということを有識者会議の結論としてまとめるということが求められているのだらうと思うのですが、しかしながら実際に施工し、実現させるとなると我々が図面を描くわけではなく、設計事務所の方、建築家の方が図面を描くことになると思うのですが、例えば私たちが川上で絵を描いてこの通りに作ってくれと設計士さんに頼むわけなのでしょうか。

前にも分科会の中で申し上げたように、ある程度理解のある、あるいは意欲のある建築家の方に絵を描いていただくのがいいのではないかと、そういうあり方もあるのではと思うのですが、その辺、最終的に私たちが図面を描くわけではなく、一級建築士の資格を持った設計士の方が設計図面を描いて施工管理をされるはずなので、そこまでどういう風になるのかがわからないことには求めるがままにパースを描いて、これで設計士さんお願いしますと出すのか、それでいいのでしょうかというところを確認したいのですが。

## 事務局

中間とりまとめの中でもお示したように、今後の予定なのですが今回は第5回ということで令和6年度に6回から9回くらいを予定させていただいて10月を目途にまずはこの委員会の取りまとめとして、エリアデザイン等を委員会の方でご提案いただきながら議会に報告するような段取りで、それを受けての最終報告というのを令和7年の1月2月くらいにいただき、その意見をもって最終的に市の方で皆さんの意見を踏まえた上で総合整備の方針を決めていきます。

総合整備の方針の中に具体的にどこまで盛り込めるかというのはまだわからないのですが、今後の設計のことですとかそういったところまで反映できるかどうかというのは現在でははっきりとはしておりません。

とりまとめの意見の中で具体的な意匠などが強い意見としてあればそれはまた検討しなくてはいけないかもしれませんが、現時点では市の整備方針を策定していろんな形での入札などの中でデザインなんかも、事前にデザインを決められる方式があるのかもしれませんが、今のところはそんなイメージだと思いますが、現時点で設計に意匠を着けてそういう人を選ぶというのはなんとも答えられない状態ではあります。

## 水田委員

はい。わかりました。

私個人としては、こういう風にしたらいいのではないかと絵をデザイナーさんが、こういうのはダメだというのは構わないのですが、逆に設計士さんの立場であれば有識者会議でこういうのができましたというのが設計条件の前提にあつたら、それが設計士さんが従わなければいけないというように独り歩きしてしまうというのは、設計士さんにとっては負担になりますので大丈夫なのかというのが気になりましたので質問した次第です。ただ、今の事務局のご回答ではそこまで具体的な筋道は考えていない

ということでしたら、今懸念している絵が独り歩きしてしまわないように設計者に影響を与えないようなこと、あるいは逆に我々が熱を入れて絵に議論しすぎてしまって設計者さんが描いてきたものがちょっと違うんじゃないかというがっかりするようなことが、私もこう言いながらがっかりするかもしれませんがその辺が気になっているというか気を付けて頂ければということです。

**市長**

むしろそういったことは水田委員や有識者の皆さんが専門ですから、そういう意見を言っていてそれを我々がどう考えたらいいのかということですし、水田委員の意見について他の専門家の皆さんがどう思うのかということをご議論をさせていただいて、私どもに返すのではなく委員の皆さんに議論をかえしていただければありがたいと思います。

**横山副座長**

今の水田委員の議論に直接ではないのですが、美術館の場合は最終的な図面を文化庁でチェックしてもらう必要があります。デザイン優先だとダメなわけです。展示室に外光が入ってはいけないとか展示ケースの入り口の高さとか。そういうことがありますので、それはデザイン云々の後の話ですけれども、そういうチェックをクリアしないとせっかくオープンしようと思っても重要な美術品は借りられない等の問題が起こってくる可能性がありますので、いつの段階かということではありますが専門施設としてはそういうことをクリアしなくてはならないという問題があります。

**下倉委員**

このプロジェクトが始まる時から思っていました、すごく重要な呉市にとって華となるような場所なので設計コンペをぜひ開いてほしいと思っていて、例えば、天応の義務教育学校もコンペをしましたがやはりいいものができたと思っています。コンペのオーガナイズに関してはいろいろできる先生も知っているのご相談いただければと思います。

**事務局**

水田委員が言われているステップのところ、我々がこの有識者会議でお願いしたいのはこの幸町地区での機能をまず整理していただきたい。

次に幸町地区で決めた機能をどう配置していくか議論していただきたい。次に、青山クラブ・桜松館の建物をどういう風に活用していくかというところ、これを踏まえてのエリアデザインの取りまとめをお願いしたいと考えております。その次のステップとして最終的に整備方針を市が決めた後で下倉委員が言われたような形のコンペをするのかどうか、どういう整備をしていくのかというステップを踏んでいきたいと考えております。

**水田委員**

僕が申し上げたいのは、コンペの募集要項に青山クラブはコの字型に残してくださいねと書くんですか。あるいは美術館はこのままの場所で造ってくださいとコンペの募集要項に書くのですか、と、それを聞きたいです。

**事務局**

最終的に青山クラブの建物をどうすべきか、有識者会議としてはどうすべきか建物をどこまで残すべきなのか、どういう改修方法が望ましいのかというところがまとまれば一番ありがたいかなと思っております。

**小野委員**

それ自体に意見をしてほしいということですよ。そもそも「コの字型は残すべきだと思う」と有識者会議としては思うのか。資料9の一番下に書かれている通りだと思って、配置などを考えた時とかに今までの資料をすべて踏まえた上で各有識者としては全部保存すべきと思うのか、一部保存すべきと思うのか、なんなら建替えの方がいいと思うのかはそれぞれの識者の自由ということですよ。

ここでまず発言をして意思を市に伝える場だと私も思っているんで、水田委員がおっしゃった中で必要なと思ったのは最後までスケジュールで、今回はここまで決まっているので次回には呉市としてはこういうことを提案する予定なのでここまでは絶対に出してほしいとかその辺はもう少ししっかりと出していただいた方が分かりやすいかと思います。

例えば、私でしたら市民としてまちづくりのいろんな企画をしている者からすれば、青山クラブは日々こういう風に見えているからここにはこういうものがあつた方がいいという意見を求められていると思って来ていますが、他の各識者の方々は違う視点で見られるので、いろんな方が来ているので私も他の方の話が聞きたいと思ったりします。

資料9の青山クラブと桜松館の活用の説明はまだしてないですか。

**田中座長**

そうですね。

私の意見としては、この有識者会議としては、有識者会議として必要な機能はこれでこういう配置をしたらいいのではないかというようなことを市に対して提案するところまでかなと思っております。そこから先に関して、どういう自由度で設計されるかというのは市の方で判断されるというそういう話かなと思っております。

ですので、これが直接的にコンペの募集要項に必ずしも行くものではないと理解しています。

**市長**

せっかく水田委員のような意見があれば全部聞かせておいていただければありがたいと思っております。

**水田委員**

コンペの募集要項に本当に「コの字型を残して」と書くのかなというのがわからなかったんで、今も思っていますコの字型で残せと書いてコンペで出しているんですか。

**事務局**

さきほども言いましたように、まずは建物の配置。今日機能を全部出していただいて、美術館は恐らくメインになるであろうということで館長からご説明をいただいた。委員さんからの有識者会議の意見としてこういう

コンセプトというかイメージパースを含めたこういうものをご提案いただいたのを市の方で見させていただきながら、意見も十分に吸い上げた形で計画の策定をさせていただく。それに基づいて、今後のいろんな発注があると思いますので、今はいろんな意見を聞かせていただき、提案をだして今の最終的な取りまとめの方向をだしていただければという思いの方が強いです。

小野委員からもう少し早めにとということでしたが、そろそろ配置の方にも入りますので、今日はその中で美術館をメインにお願いをして説明頂いたということです。美術館の方が決まればあとのところも自ずと決まってくるのではないかと思います、それに関して十分に意見を頂きたいと思います。

#### 田中座長

有識者会議としてどう考えるかというところで、最終的なコンペをやるのかどうかというところはあれですが、その自由度というところはまたちょっと次のステージで、この有識者会議のあとの話なのかなと考えております。

まずはそれで話を進めさせていただきたいと思います。

その上で、機能の配置を考えた時に何があればいいのか、そこに関してはさきほど横山副座長から美術館の配置については少し案をいただいたという状況かと思えます。

美術館の配置についてどうかというところを少しご意見をいただければと思いますがいかがでしょうか。

#### 小野委員

美術館の配置といいますか、結局全体の配置になるんですけども、岡委員からあったような青山クラブが入口であって、河崎委員もおっしゃっていましたが、人々が集いやすいエリアとして青山クラブが入口としてあって、そこからどんどん中に入っていく。委員会の中でも私も意見させてもらいましたが、そもそもの歴史としても青山クラブは集会所として市民と交流もできる場所であったということと、奥の長官官舎はそれなりの人しか入れなかった場所なのでそういう歴史的な機能も踏まえた上で残していくといいと思っていました。

ということで考えると、美術館がより開かれた場所にと考えると青山クラブの方にあるのかなと思っていたのですが、所蔵作品を守るですとか、そういった意味も含めると美術館としておっしゃっていた内容もなるほどと思っています。もともと美術館本館と桜松館を一緒にして美術館にしてほしいと思っているのは平成29年に市民として提出させてもらった提案書の中で私としても提案していたところだったのですが、当時は美術館がそこまで機能不全に近いような状態だとは知らなかったのでこのまま使ってほしい、改修してほしいと提案しました。ですけれども、美術館本館が本当に使いにくいと考えていた時には建替えであったりということも視野にいれなくてはいけないのだろうなと理解しました。

あと、全体になるのですが私が思っているのは、幸町全体が呉の歴史のレイヤーがしっかり見えるエリアだと考えた時に、明治前の入船山という歴史と長官官舎が明治38年ですかね、長官官舎が明治で青山クラブが昭和前半で、そのあとの美術館本館が昭和57年で比較的そこから比べれば新しいとはいえ実は私のように美術館が好きで育った人間からしてみればすでに歴史の一つになりつつあると、建物としても考えられるのかなと思います。

このエリアに行くとも明治から昭和初期、昭和最後から平成にかけての建物がここにすでに集っている状態という風にもなり得ると思うと、美術館をここに置くべきかどうかは建物をどう使えるのかになってくると思うので、資料の保存などが本当に大事な建物になると思うんですけど建物として美術館本館も改修するような形になると、青山クラブが、今既存の呉市にある美術館をイメージするのではなく21世紀美術館のような市民が交流できるようなイメージの美術館+宿のような複合施設、桜松館はホールの機能を備えた美術館の一部である。さらに言うと（現在の）入船山記念館敷地内にある歴史民俗資料館と郷土館というのが小さいのではないかなと思っています。

美術館を美術館として使うには天井高が4mないと厳しいけれど、資料館としてなら使えるというのも考え方としてはありなのかなと思ったときに、長官官舎から（現在の）美術館に至るまでは入船山記念館という資料館としての機能で、青山クラブと桜松館が新しい美術館のあり方というのを踏まえた形の美術館ゾーンというのがいいのではないかなと思っています。美術館そのものの概念にもよりますが、開かれた場所にとというのは思います。

さらに、青山クラブ・桜松館の建物の全部保存、一部保存、建替えというところまで言及してしまうのですが、私の意見としましてはできる限り全面保存と思っています。ここは文化財に近い建物だと思っています、空襲で市街地が消失して海軍施設が残ったという事実、この場所にはすごくあると考えていまして、非常に重要な考え方なのではないかなと思います。なので、全部保存して使うということ考えた上での今の発言となります。以上です。

#### 水田委員

まず美術館の配置についてですが、まず前提として先ほど申し上げたようにまずは法令上の確認が必要だと思います。

4,000 m<sup>2</sup>超の建物を新築できるのかということの確認が必要だと思います。実際に美術館を運営していない立場でこういうことをいうのはあれかなと思いますが、ある程度分散して美術館の機能は置いてもよいのかなと。例えば本館部分を完全に建替えたとしたら、そこはある程度高さの必要な機能を持ってくるとか事務など管理的なものはある程度高さが低くても何とかかなと思いますので、そういったものは青山クラブに持ってくるとか常設展は青山クラブに置いて、企画展は新築する本館の方に置くなどと分散して、確かにそれをやると間に桜松館があって、一旦外に出ないと

いけないなど運営上大変なことは重々承知しているのですが、例えば規模は全然違いますが東京の国立博物館でも機能に応じて建物が分かれていますし、そのような感じで分散してでも良いのでは、分散した配置でなんとか美術館をここだけにまとめるのではなく青山クラブを巻き込んだ使い方ができないのかなとそのように思っています。

青山クラブの今後については、さんざん申し上げているようにさきほど小野委員がおっしゃられたように、文化財として値する建物だと思います。この場所の中、あるいはこの建物の中で市民がいろいろな物語、記憶を持っているわけなので、藤森（照信）さんが猿は猿山を見て懐かしむことはないが、人間は昔の建物を見たら懐かしむものだと、建物を残す意味はそこに大きな意味があるのだとおっしゃいましたが、そうやってかつてデパートのようにして使っていたこの建物あるいは、遊園地のようにして使っていたこの建物が今もその場所があるというのは市民にとってかけがえのない建物になると思っていますので、是非文化財として残して頂けたらと思います。

**田中座長**

ありがとうございます。その他にあるでしょうか。

**戸高委員**

はなはだざっくりとした話にはなりますが、基本的に例えば美術館ですね、今の建物を手直しするということは大変不経済な場合もある。将来のことを考えたらやはり新しい方が私にはいいとは思いますが、ただ事業の目的に対して内容を絞り込んでいかないとどんどん大きくなってしまふ。

今の建物は、先ほどもありましたように例えば、呉のいろいろな映像とか資料を残した呉アーカイブのようなものがあつたらいいという話、呉に基づいた映画のような資料があつたらいいという話、そういうところと、今、非常に資料がありながら展示場所がなくて大変な状況の郷土館ですね、いい資料がたくさんありますが展示施設としては十分ではないので、そういったものを持ってきてここは今の建物を活かしながらふさわしい仕事ができるのではないかと。

美術館はやはり新しくしてコンセプトを絞って、これからの保存環境とかそういったものを満たしたものになると良いのではないかと。

それを考えた時に青山クラブというのは、私はもともと呉の人間ではないのでいろいろな地域の人々の思いがあるのはわかりますが、部分保存というのが現実的で、きちんとした新しい施設の中に美術館があり、例えば呉・広島に関わる芸術家ないし文芸作家、そういった人たちの資料館がありという風なきちんとしたものができたらそこに集めて、1階とかの下フロアは商業施設でもいいと思うけど上の方にある。そうすると何がいいかというところ、そういうところに共用のホールみたいなものを作ると周辺の施設がスケジュールを合わせながら使えるようになってきたりと思う。

今あるものを活かす部分と、新しく建てなければこれからの事業にふさわしくない部分とあると思うので、青山クラブは残したいという意見はわかりますけれどもこれを全面保存というのはやはり、建物は古い部分、記

憶の部分もとても大切ですが、将来のための部分というのも本当に大切です。

やはり将来に対する、対応できるような形で使う、建てるということが大切だと思います。歴史的なものというのは、本当は私も何でも残したいのです。丁寧にきちんと残して未来に届けたい。それだけをやっていたらできないこともたくさんある。ですから頑張って、思い切ってあきらめる部分も必要なのです。歴史的な資料、遺跡などがあっても全部残すということはできないということは多くて、一部でもきちんと残してそこに歴史を集約していく将来の為にあきらめるという言葉はきついですが、将来の為に変えていくという部分もきちんとやらないといけない。気持ち的に難しいところはたくさんありますけれども、残すか残さないという決断をする難しさというのも乗り越えなくてははいけないと思う。

大和ミュージアムでも、貴重な欲しい資料、残さないといけない資料たくさんありますが、あきらめなきゃいけない物も当然あるのです。やっていく上では。それをやらなかったら、ただただ、古いものだけが大切だと山のようになってそれが本当に役に立つのかと考えなくてははいけないので、どこかで思い切って線を引くという覚悟を、やらなきゃいけない部分、苦しいけれども決断しければいけない部分があるというのを理解しながらやらなくてははいけないと思います。以上です。

#### 小野委員

怖くなって補足しますが、建物の専門家ではない上に今、全面保存をした方がいいといった意味が建物の全棟保存という意味になってしまうといけないなと思いました。私としてもまだ整理がついていないのが、この建物のどの部分を絶対に残したいのだろうというところが実はモヤッとしていた部分があります。ただ、全棟保存が意味するところというのがちょっとまだわかっていない部分があって、一部保存というのが躯体をどこか完全に切り分けてしまう形になるのかというのがあるんですけれども、恐らくこのアール状の建物、あの外観というのはとても大事なだろうなと思っていて、そうした形というのには残した方がいいのであろうということと、先ほどちょっと言った恐らく空襲でここが残った意味であったり、ここが残ることで今後紐解けることがあるのかもとかいろいろな意味を持ち合わせていると思うので、できるだけ残したいという風な意味で改めて補足させていただきます。

#### 水田委員

冒頭に私が質問したようにこれは最終的にどういう形で設計者さんにお渡しするのかなというのがわかりません。

保存とカリノバージョンっていうのはあくまでも設計者が歴史的な建物に対し向き合うか、そしてどのような回答を出したかというのがリノベーションなので、答えが人によって違うはずなのでそれがいいのか悪いのかはその人次第と思うので、単刀直入に申し上げまして表側の外壁だけのアールの部分と国道と美術館通りに面した壁だけ残すというのは、それは造っても学会賞を取れないだろうなというのは建築の方であれば皆さんわか



ると思います。じゃあどうしたらいいのかというのをここで話し合うのですかというのがわからない。

**横山副座長**

私は水田委員の意見には反対で、コンセプトはこちらで提示する必要があると思います。

つまり設計士という問題ではあるけれども、こういう内容で設計してくださいと、例えば美術館で新築を考えたときにもし私がやるのであれば文化庁のガイドラインに従ってこれだけのことをクリアしたデザインを考えてください。別に学会賞を取るための設計をお願いしているわけではありませんと、はっきり申し上げます。

往々にしてデザイン優先ではなく、機能を積み上げてきたというのはそういうことなのでその辺はよくお考えいただきたいと思います。

**水田委員**

横山副座長のおっしゃるように機能が前提にあるというのはもちろんだと思います。美術館としての機能を満たす必要もありますし、もちろんさきほど申し上げたように、各種の法令等も満たす必要があると思います。

学会賞という言葉がわかりやすいのでついつい使ってしまうのですが、決して目立った建物を作るのがいいというつもりではありません。ただ、恐らくこの建物が実現して県外からあるいは海外からお客さんが来るような建物が出来上がったとしたら、恐らくそれは学会賞の候補になると思いましたが、そういう表現を数回前から使っているつもりです。決して美術館としての機能を無視してもいいというつもりではありません。

**横山副座長**

有名建築家が建てた美術館というのは世界各地にあります。往々にして使いにくい。メンテナンスを考えていない、現場が困っている、お金がかかりすぎ、そういうケースの方が多いということもご記憶いただければと思います。

**田中座長**

ありがとうございます。その他、配置についてのところで何か意見があれば少し出していただけると次に繋がるかなと思っていまして、いかがでしょうか。

**松野委員**

美術館が建て替えられるのを前提として話しをすると、やはり補完する施設として桜松館の位置にあるべきだろうと。ただ、美術館が建て直されたときに新築したものだけで完結する施設が建つのであれば、桜松館のそのあとの使い方も考えておかなければいけないだろうなどは思います。

なので先ほどお伺いしたのが、どこまで建つのが分かった上で話をした方がいいだろうと思っています。

**横山副座長**

繰り返しになりますが、今の美術館の敷地と桜松館の敷地を含めた中で考えるということをあり方検討委員会としては言っているわけなので、桜松館の中で残すとするとホールの部分だろうと。そこだけは使うのであれ

ば残した方がいいとは思いますが、繰り返しになりますがデザインは別にこだわっていないと申し上げているので、その辺はいかようにも考えられるのではないかと気がします。

結果的に桜松館の外側なども残すということであれば、それを前提とした設計は考えていくことはできるのではないかと思いますし、天井の話などをしましたが、美術館というのはリニューアルや一部改築で済むことではなく完全な新築というか改築になるのではないかと考えています。

#### 小野委員

横山副座長にお聞きしておきたいのですが、先ほど少し申し上げた美術館の今の建物を残した上でそこを使うというよりも、他の資料館などの機能になってもいいのではないかと。そうなったときに青山クラブ+桜松館のような美術館の作り方。青山クラブも分ける必要があると思いますが、全面を美術館で使う必要もないと思いますし、そういった形でのあり方というのは美術館として検討は可能と考えていますか。

#### 横山副座長

そういう話は何年も前に出たことはありますが、先ほど言いましたようにまったく更地にして全部上物を取った上で考えるというのであれば考えられますが、現状としては、美術館は建物というよりも故山苑含めた緑あふれるエリアということで考えると、あそこは美術館の改築にふさわしい所だと。それは繰り返し説明をすると国道から離れているというのがとても大事なことで、あれだけ交通量が多いところで4tトラックが出入りするようなことだと難しくなってしまうし、そういうことを考えるよりはさきほど水田委員もおっしゃっていましたが、今の本館と青山クラブで美術館機能を分けるというのは、私はある意味ナンセンスだと思っています。青山クラブを残すとして、その中に美術館の出先の部屋を作るというのはあるかもしれないけれども、ということです。

#### 田中座長

ありがとうございます。その他はいかがでしょうか。

機能全般を含めて配置について、時間もだいぶ過ぎていますので最後にしたいと思いますがよろしいでしょうか。

機能の配置についてご議論いただけたかと思います。ひとつは横山副座長が言われたような、現在の本館敷地を基本に桜松館を含めて考えるというようなものと、もうひとつは、もう少し開かれたというか、分散の程度はあるかと思いますが一部機能を分散させて配置させるというような二つくらいご意見をいただけたのかなと思います。

この二つを軸に次回以降考えられるといいのかなと思いました。一方でご議論いただきました、この会議として最終的にどこを目指すのかということに関しては一度、委員の皆様の認識の共有ができればと思いますのでその辺りも次回に向けて検討できればと思います。

ということで、また次回に向けて進めてまいりたいと考えておりますがよろしいでしょうか。

<p><b>水田委員</b></p> <p><b>田中座長</b></p>	<p>他の委員会からの報告が挙がってきたのですが、この有識者会議はそれぞれの委員会から挙げた要望の答えを考える会ではないと思う。美術館はここで建てたいとおっしゃるのであれば、それは現実的に非常にハードルが高い要求だというのはわかるはずではないでしょうか。それに対してどのようにするのかというのを考える必要があると思いますし、あるいは入船山記念館運営審議会でも青山クラブについてのどういう風な価値があるのか聞こえてこないという要望がありました。そうであれば入船山記念館全体として青山クラブをどのように評価するのか、それに対する意見の提案・アドバイスがあっても良いのではないのかなと事前に資料を拝見していて思いました。</p> <p>その辺りも含めて次回に向けて少し整理をしたいと考えております。よろしく願いいたします。</p> <p>本日予定しておりました議事は以上です。</p> <p>最後に報告・連絡事項として、次回の会議について、事務局よりお願いいたします。</p>
<p><b>3 その他報告・連絡事項</b></p>	
<p><b>事務局</b></p> <p><b>田中座長</b></p>	<p>本日も、ご多用の中、有識者会議へご参加いただき、また、長時間にわたる議論を行っていただきまして、誠にありがとうございました。</p> <p>今日の会議で出た大事なことについては事務局で整理していただきながら、次回の会の中でしっかりと共有をさせていただきたいと思っております。次回の会議ですが、本日の有識者会議で議論を頂いた内容を踏まえて事務局で整理し、次回の有識者会議においてさらに深く議論していただくための資料を作成していきたいと考えております。次回の会議については5月中旬から下旬に開催したいと考えております。詳細な開催日時に関しましては、今後の委員の皆様方との調整を行いたいと存じますので、お願いいたします。</p> <p>長い時間ありがとうございました。本日の有識者会議は終了といたします。皆様ありがとうございました。</p>